

第2部 人と環境を重視する都心交通に向けて

S.T.A.R. Plan



公共交通のサービスアップに取り組みます

人と環境を重視した新しい時代の都心交通の実現に向けては、持続可能な交通システムとして公共交通をいかに活用するかが重要です。過度に自動車に依存するライフスタイルに対する共通認識を市民全体で醸成しつつ、車中心から歩行者優先へのスムーズな転換を進めるうえで利用促進が期待される環境にもやさしい公共交通の充実を進める必要があります。

1.

都心アクセス機能の向上

公共交通をより便利で使いやすくするために、自宅や事業所などの出発地から都心へ至るまでの経路全体で利用者視点によるサービス改善を図ります。

1. 料金システムの充実

利用しやすい料金サービスの実現
ICカードの導入
事業者間の連携

割引乗車券



S.M.A.P.(スマップ)カード

将来は、札幌圏の交通機関やショッピングなど、日常生活で便利に使える電子乗車券と電子小銭入れを目指しています。



2. 既存交通機関の有効活用

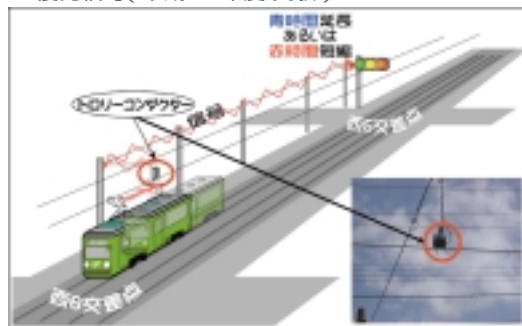
路面電車の活用

優先信号システムの導入
電車通の整備、低床車両の導入

タクシーの活用

GPS-AVM配車システムの活用
適切なタクシー乗り場の配置と適正な運用
高齢者、福祉サービスの充実

優先信号(平成15年度実験)



低床車両(岡山の例)



3. 乗り継ぎの円滑化

交通情報提供システムの充実
P & R(パークアンドライド)
駐車場の活用

バス総合案内システム(JR札幌駅)



P & R駐車場



2.

都心内サービスの向上

都心での多様な活動(アクティビティ)の活性化に向けて、都心内での公共交通の利便性を高め、ターミナル機能の改善を進めます。

1. 回遊機能の強化

バス走行環境の改善
バス待ち環境の改善
都心循環バスなどの導入

無料 都心循環バス
(平成16年度社会実験)



地下鉄エレベーター



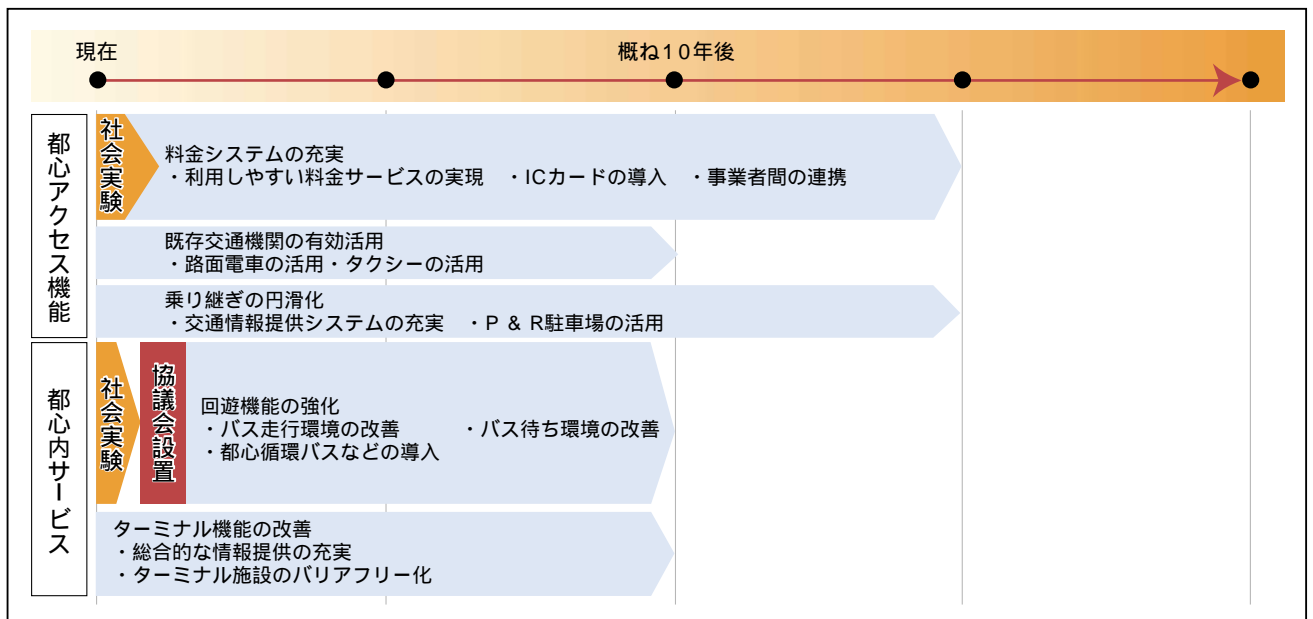
視覚障がい者誘導用
ブロック(手稲駅自由通路)



2. ターミナル機能の改善

総合的な情報提供の充実
ターミナル施設のバリアフリー化

□ 主要施策とプロセスプラン



海外の先



海外のまちの公共交通は
どうなっているのかしら？

海外の先進都市では、
公共交通機関を
積極的にまちづくりに
とりいれています。



モールの中を
路面電車が
走っているのね。



ストラスブール(フランス)



ストラスブールはもっとも有名なLRT都市であり、各国からの視察者も絶えない。街の美観をつくるLRT、トランジットモール、パークアンドライド駐車場などが整備されていて、先進的な交通システムを体感できる。

LRTって段差が
なくて、だれにでも
乗り降りしやすいのね。



ミュンヘン(ドイツ)



トラムが歩行者ゾーンを通過する

ミュンヘンでは市街地に歩行者ゾーンを設定し自動車の流入規制をおこなっている。歩行者ゾーン内での交通機関はトラムのほか、地下には地下鉄(U-burn)と国電(S-burn)が走っている。



低床車両の出入口

こんな素敵な
路面電車が走っていたら、
街の中を気軽に移動
できそうね。



進事例



こんな素敵なバス停もあるのね。冬は暖かくて良さそう。

ポートランド市にはこんなバスもあるのね。



Brazil

クリチバ(ブラジル)



バス停は、ユニークなチューブ状のプラットフォームになっており、改札員に料金を支払ってプラットフォームに上がることで、チューブの中で風雨にあたることなくバスを待つことができる。



U.S.A

ポートランド(アメリカ)



市内を走るバス



無料乗車エリア内のバス専用モール



無料乗車エリア

ポートランド中心部のモールでは一般の自動車の進入を禁止した上で、歩道を約7mまで拡幅し、植栽や歩行者の目を楽しませるようなオブジェが設けられている。

また、モール内にはバス停留場を集中的に設け、バスの利便性を高めており、ライトレールのMAX(Metropolitan Area Express)とともに歩行者中心の街づくりを担っている。

さらに、公共交通の利用を促進するため、市ではダウンタウン内の12ブロックで公共交通を無料とする政策を導入した。こうした取組の結果、1970年から1990年の間に、ダウンタウンへの公共交通による通勤者は40%以上増加し、交通渋滞は緩和された。

無料でバスや電車が利用できるなら、車を使わないわ。



都心道路利用のルール化を図ります

多様な交通手段が共存し、一年を通して安心安全で円滑な移動性を確保するためには、利用しやすい公共交通による自動車交通需要の適正化と同時に、都心においては適切な自動車利用を図ることが必要です。

1.

荷さばき対策

荷さばきは、都心の経済活動を支えているという観点から、運送事業者だけでなく、荷物を発注する都心事業者の協力のもと、荷さばきの効率化と路上荷さばきのルール化を行います。

1. 荷さばきの効率化

荷受側の納品ルール化
共同輸配送システムの導入

2. 路上荷さばきのルール化

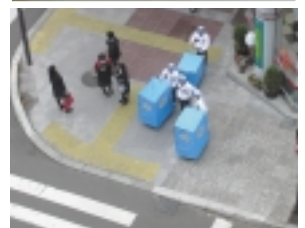
タイムシェアリング
荷さばきベイの設置

3. 路外荷さばき施設の整備

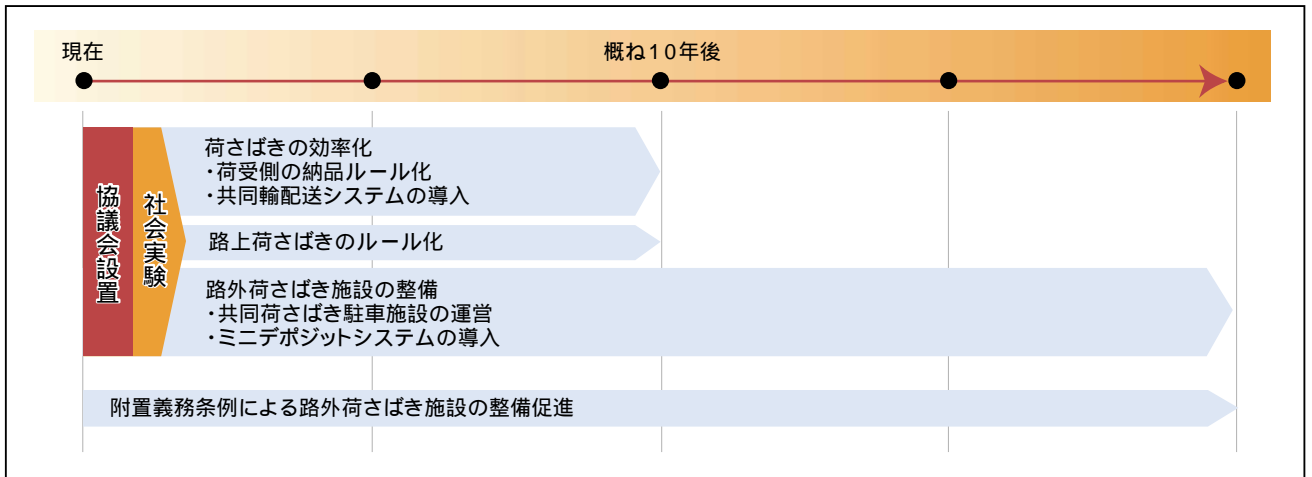
附置義務条例の適正運用
ミニデポジット システムの導入
共同荷さばき駐車施設の運営

路外共同荷さばき駐車場(平成15年度 社会実験)

ミニデポジットシステム
(平成15年度 社会実験)



主要施策とプロセスプラン



協議会設置
社会実験

第1部

第2部

第3部

2.

路上駐車対策

違法駐車等防止条例の運用強化や啓発活動を積極的に展開し、マナーの向上に努めるとともに、既存駐車場などを有効に活用する方策や観光バス待機場の設置に向けた取り組みを進めます。

めいわく駐車防止キャンペーン
(平成16年度 社会実験)



1. 法制度の運用徹底

違法駐車防止条例などの強化、見直し
市民参加キャンペーンの推進

3. 都心部観光バス待機場の配置

都心部観光バス待機場の配置

2. 既存施設の有効活用

共通駐車券の導入拡大
駐車場案内システムの改善

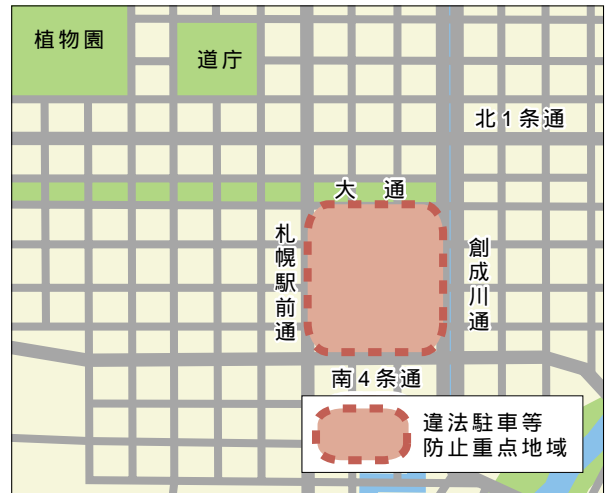
札幌都心共通駐車券「カモンチケット」



都心部観光バス待機場



違法駐車等防止重点地域



主要施策とプロセスプラン

